

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学	分野	看護学
学籍番号		院生氏名	三橋 祐子
通学キャンパス			
論文題目	産業看護職の地域保健との連携コンピテンシーとその関連要因に関する検討		
審査結果（枠で囲む）	<div>合格</div> 不合格		
<div>＜審査結果の要旨＞</div> <div>1. 研究の概要と研究手法等の適切性</div> <div>1) 研究の概要：本研究の目的は、産業看護職の地域保健との連携や連携コンピテンシー（Competencies of Collaboration：「CC」）の実態とその要因を明らかにするとともに、連携コンピテンシーを高める要因について検討することである。産業看護職を対象に自記式質問紙調査を行い 815 名の回答を得た。地域保健との連携経験者は 34.0％と低く、その必要性を認識していない者も 17.9％いた。また、CC（日頃の取り組み、連携の実践、組織の理解を得るための取り組み、連携の基盤となる意識・姿勢・考え方）の関連要因は、地域保健主催の研修会や勉強会などへ参加経験、ロールモデルとなるような産業看護職の存在等であり、連携コンピテンシーを高めるには地域保健関係者との顔の見える関係づくりができる機会を増やすこと、ロールモデルとなる産業看護職を増やすこと等が重要である事がわかった。</div> <div>2) 研究方法：申請者所属の東海大学健康科学部倫理委員会の承諾を得ており、倫理的に問題はなかった。本研究の分析法は記述統計、I-T 相関分析、共分散構造分析、Cronbach の <math>\alpha</math> 係数、Mann-Whitney の U 検定、重回帰分析（ステップワイズ法）を用いて分析し、適切に行われていた。</div> <div>3) 知見の新規性と価値：本研究の新規性は、産業看護職の地域保健との連携コンピテンシーの実態を明らかにした点と連携コンピテンシーを高める要因を明らかにした点にある。今後、本研究成果を産業看護職の現任教育に取り入れることで地域・職域連携の促進・支援にも貢献しうる研究として高く評価できる。</div> <div>2. 審査は、令和元年 12 月 5 日に、下記 3 名の委員により、論文審査と発表を基に口頭試問を行った。連携コンピテンシーを 4 つの側面に分けた根拠、カテゴリーや概念図の説明の不十分さ、全体の整合性について等の指摘があり論文の加筆、修正を求め、12 月 27 日に再審査を実施した。更に不十分な点を指摘し、令和 2 年 1 月 10 日に提出された修正論文結果は、十分な解答であると判断し最終合格とした。</div> <div>3. 口頭試問においては、適切に応答したが、上記 2 の指摘事項があり文書で回答を求め、論文の加筆・修正を求めた。</div> <div>4. 以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士（看護学）の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</div>			
論文審査担当者	<div>主 査 斎藤 照代</div> <div>副 査 藤本 幹</div> <div>副 査 佐藤 真由美</div>		